

THE ROOSTERS 結成 45 周年記念

THE ROOSTERS の伝説的なライブを CD、レコードでリリース決定**11月25日タワーレコード限定発売**

～レコードはロンドン アビイ・ロード・スタジオにてカッティング～

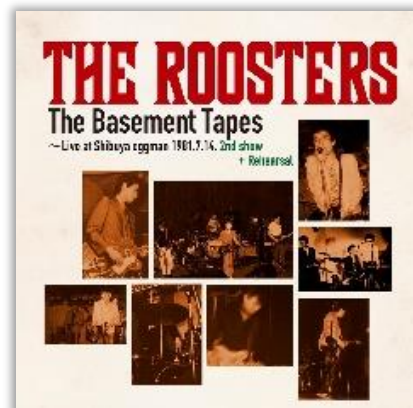
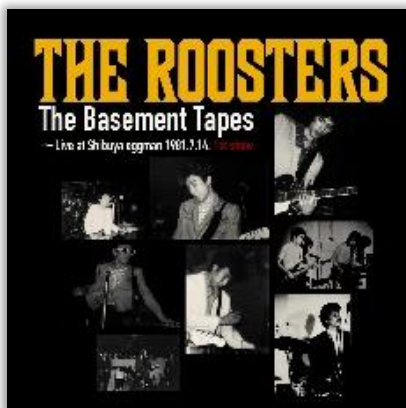
PRESS RELEASE

タワーレコード株式会社では、ユニバーサル ミュージック合同会社協力のもと、THE ROOSTERS が 1981 年 7 月 14 日、オリジナル・メンバー 4 人で行った渋谷 eggman での伝説的なライブ音源(1st Show+ 2nd Show+リハーサル)を正式解散から 20 年の節目となる本年 11 月 25 日(月)に最新リマスターリング仕様にて紙ジャケット CD と、今回が初となるアナログ・レコードでリリース、タワーレコード限定で発売します。

アナログ・レコードは 2024 年、ロンドン アビイ・ロード・スタジオにてエンジニアのアレックス・ウार्टンによりカッティングが施されました。

またタワーレコードでは『ルースターズ/The Basement Tapes～Studio Session 1980』、『ルースターズ/LIVE 1982』の 2 タイトルも紙ジャケット CD と初のアナログ・レコードでタワーレコード限定にて 2025 年 1 月 22 日発売を予定しています。

なお、今回の発売日となる 11 月 25 日は THE ROOSTERS のデビュー・アルバムが 44 年前に発売された日にあたります。タワーレコードでは、自社以外の様々な動きとも連動し、各店、オンラインで THE ROOSTERS の結成 45 周年を展開し盛り上げていきます。

タワーレコード オンライン詳細ページhttps://tower.jp/article/feature_item/2024/09/13/0701**■ The Basement Tapes～Live at Shibuya eggman 1981.7.14. 1st show****11月25日(月) 発売** ※写真左**■ The Basement Tapes～Live at Shibuya eggman 1981.7.14. 2nd show + Rehearsal****11月25日(月) 発売** ※写真右

<タイトル別 商品詳細>

The Basement Tapes~Live at Shibuya eggman 1981.7.14. 1st show <タワーレコード限定>

■ CD (PS/RM) : 販売価格 : 3,300 円 (税込)

品番 : PROT-1381

仕様 : A 式見開き紙ジャケット仕様 CD1 枚組

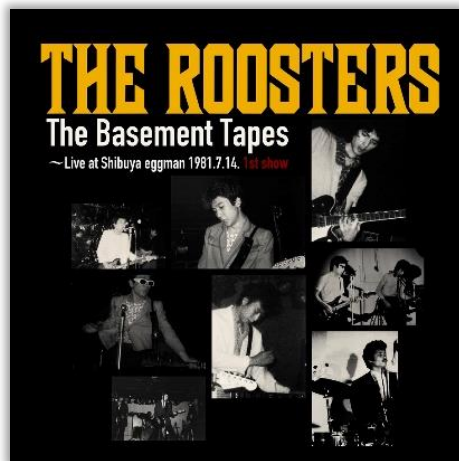
■ LP (LP/RM) : 販売価格 : 4,400 円 (税込)

品番 : PROT-7305

仕様 : A 式見開き紙ジャケットアナログ・レコード LP1 枚組

Analog Cutting Engineer : Alex Wharton (Abbey

Road Studios, London)



■ 発売日 : 2024 年 11 月 25 日(月)

■ 2024 年最新リマスター仕様 製造および発売 : ユニバーサル ミュージック合同会社

■ 書き下ろし解説 (今井智子)・歌詞付き

1981 年 7 月 14 日、THE ROOSTERS がオリジナル・メンバー4 人 : 大江慎也(vo, g)、花田裕之(vo, g)、井上富雄(b)、池畑潤二(ds)で行った渋谷 eggman でのライブ音源が 2024 年最新リマスター仕様、タワーレコード限定販売にて CD と LP を発売。

2nd アルバム『THE ROOSTERS a-GOGO』及び、4th シングル「GIRL FRIEND」リリース間もない 1981 年 7 月 14 日、威嚇するように「前のめり」、スリルとエネルギーに満ちた THE ROOSTERS の魅力満載のドキュメンタリー。あらためて「ライブが最高。」とファンを奮い立たせる。スタジオ録音が無く、オリジナル・アルバム未収録の名曲カバーの数々も貴重。

1st show の幕開けは Velvet Underground の「WE'RE GONNA HAVE A REAL GOOD TIME TOGETHER」をベースにして英語詞で書かれたアルバム未収録曲「EVERYTHING'S GOES ON」、2nd アルバム『THE ROOSTERS a-GOGO』からの先行シングル「ONE MORE KISS」、とそのカップリング曲「DISSATISFACTION」、4th シングル「GIRL FRIEND」、サンハウスのカバー「BACILLUS CAPSULE」、「FLY」など。Dr. Feelgood のカバーでライブ定番ながらスタジオ録音は無く、アルバム未収録の「SHE DOES IT RIGHT」も嬉しい。1st アルバム『THE ROOSTERS』からは Bo Diddley の代表作で The Rolling Stones も初作でカバーした「MONA (I NEED YOU BABY)」、さらに「新型セドリック」「FOOL FOR YOU」、デビュー・シングル曲「ロージー」などのオリジナル曲で九州時代からのライブ定番曲も圧巻。1st Show を締めくくった「BYE BYE MY GIRL」もスタジオ録音は無いが、ライブのクライマックスの定番。

<収録曲> (CD) * LP は 1-6 曲目を SIDE-A、7-12 曲目を SIDE-B に収録

1. EVERYTHING'S GOES ON (作詞 : 大江慎也 作曲 : 大江慎也)
2. DISSATISFACTION (作詞 : 大江慎也 作曲 : 大江慎也)
3. BACILLUS CAPSULE (作詞 : 柴山俊之 作曲 : 鮎川 誠)
4. MONA(I NEED YOU BABY) (作詞・作曲 : Ellas McDaniel)
5. GIRL FRIEND (作詞・作曲 : 大江慎也)
6. SHE DOES IT RIGHT (作詞・作曲 : Wilko Johnson)
7. ONE MORE KISS (作詞 : 大江慎也/ Alexander Mosley 作曲 : 大江慎也)
8. FLY (作詞 : 大江慎也 作曲 : THE ROOSTERS)
9. ROSIE (作詞・作曲 : 大江慎也)
10. 新型セドリック (作詞・作曲 : 大江慎也)
11. FOOL FOR YOU (作詞・作曲 : 大江慎也)
12. BYE BYE MY GIRL (作詞 : 大江慎也 作曲 : 大江慎也)

All Produced & Arranged by THE ROOSTERS (大江慎也(vo, g)、花田裕之(vo, g)、井上富雄(b)、池畑潤二(ds))

The Basement Tapes~Live at Shibuya eggman 1981.7.14. 2nd show+Rehearsal <タワーレコード限定>

コード限定>

■ CD (PS/RM) : 販売価格 : 3,300 円 (税込)

品番 : PROT-1382

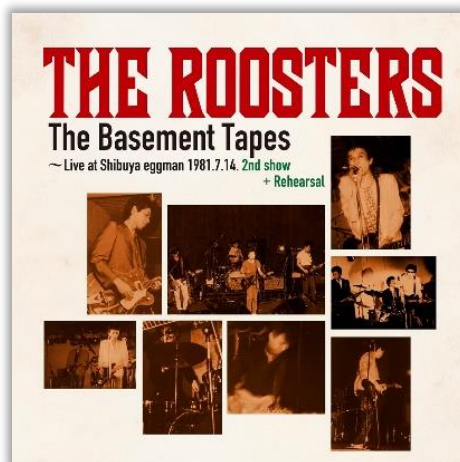
仕様 : A 式見開き紙ジャケット仕様 CD1 枚組

■ LP (2LP/RM) : 販売価格 : 6,600 円 (税込)

品番 : PROT-7306/7

仕様 : A 式見開き紙ジャケットアナログ・レコード LP2 枚組

Analog Cutting Engineer : Alex Wharton (Abbey Road Studios, London)



■ 発売日 : 2024 年 11 月 25 日(月)

■ 2024 年最新リマスター仕様 製造および発売 : ユニバーサル ミュージック合同会社

■ 書き下ろし解説 (今井智子)・歌詞付き

2nd show では、2nd アルバム『THE ROOSTERS a-GOGO』から The Tornados による世界的ヒット曲で、The Ventures のカバーでも有名なインストゥルメンタルのカバー「TELSTAR」、大江慎也(おそらく)がブルースハーブを響かせるチャック・ベリーのカバー「COME ON」、大江慎也作のオリジナル「FADE AWAY」、スリム・ハーボ(James Moore)のカバー「I'M A KING BEE」、Bo Diddley の代表曲のカバーでヤードバーズによるカバーでも知られる「I'M A MAN」、

「SITTING ON THE FENCE」、3rd シングル「ONE MORE KISS」のカップリング曲「DISSATISFACTION」などのオリジナルも数多く演奏された。

1st アルバム『THE ROOSTERS』からは Bo Diddley の代表作で The Rolling Stones によるカバーでも有名な「MONA (I NEED YOU BABY)」のカバー、1st Show とは違った雰囲気でのデビュー・シングル「Rosie」、そのカップリング曲で The Rolling Stones やマディー・ウォーターズのカバーでも知られる Willie Dixon の「I Just Want to Make Love to You」の邦題を借用した「恋をしようよ」、2nd シングル「どうしようもない恋の歌」、エディ・コ克蘭のカバー「C' MON EVERYBODY」、The Rolling Stones もカバーしたブルースや R&B のスタンダード曲や 50's ポップスなどが並ぶ選曲がうれしい。

アルバム未収録ながら、ライブ定番曲「LEATHER BOOTS」、Dr. Feelgood のカバーでライブ定番「SHE DOES IT RIGHT」が聴けるのも貴重。

アンコールでは 1st アルバム 1 曲目に収録された The Champs の名曲カバー「TEQUILA」、同じく 1st アルバム収録のサンハウスのカバー「DO THE BOOGIE」(作詞 : 柴山俊之 作曲 : 鮎川 誠)、2nd アルバム収録で Connie Francis のラヴ・ソングをロックでカバーした「LIPSTICK ON YOUR COLLAR」、ライブのクライマックスの定番ながら、スタジオ録音が無いアルバム未収録「BYE BYE MY GIRL」などで締めくくる。1st Show と 2nd Show ではセットリストをかなり変えており、重複するのはシングル曲など 4 曲のみ。

ボーナス・トラックとして同日 1981 年 7 月 14 日渋谷 eggman ライブ本番前(1st の前)のリハーサル音源を収録。「ROSIE」など 1st Show と 2nd Show の両方で演奏した人気曲を中心に 7 曲、楽器やマイク、機材を調整しながらの演奏が聴ける。

<収録曲> (CD) *LPは1-7曲目をSIDE-A、8-14曲目をSIDE-B、15-18曲目をSIDE-C、19-25曲目をSIDE-Dに収録

1. TELSTAR (作詞・作曲 : Joe Meek)
2. Come On (作詞・作曲 : Chuck Berry)
3. Fade Away (作詞・作曲 : 大江慎也)
4. MONA(I NEED YOU BABY)(作詞・作曲 : Ellas McDaniel)
5. I'M A KING BEE (作詞・作曲 : James Moore)
6. どうしようもない恋の唄 (作詞 : 南 浩二 作曲 : 大江慎也)
7. SHE DOES IT RIGHT (作詞・作曲 : Wilko Johnson)
8. I'M A MAN (作詞・作曲 : Ellas McDaniel)
9. ROSIE (作詞・作曲 : 大江慎也)
10. LEATHER BOOTS (作詞・作曲 : 大江慎也)
11. SITTING ON THE FENCE (作詞・作曲 : 大江慎也)
12. DISSATISFACTION (作詞・作曲 : 大江慎也)
13. 恋をしようよ (作詞・作曲 : 大江慎也)
14. C'MON EVERYBODY (作詞・作曲 : Eddie Cochran/ Jerry Capehart)
15. TEQUILA (作詞・作曲 : Chuck Rio)
16. DO THE BOOGIE (作詞 : 柴山俊之 作曲 : 鮎川 誠)
17. LIPSTICK ON YOUR COLLAR (作詞・作曲 : G. Goehning/ Edna Lewis)
18. BYE BYE MY GIRL (作詞・作曲 : 大江慎也)

<Bonus Tracks>

19. ROSIE (作詞 : 大江慎也 作曲 : 大江慎也)
 20. LIPSTICK ON YOUR COLLAR (作詞・作曲 : G. Goehning/ Edna Lewis)
 21. DISSATISFACTION (作詞・作曲 : 大江慎也)
 22. I'M A KING BEE (作詞・作曲 : James Moore)
 23. SHE DOES IT RIGHT (作詞・作曲 : Wilko Johnson)
 24. BYE BYE MY GIRL (作詞・作曲 : 大江慎也)
 25. TELSTAR (作詞・作曲 : Joe Meek)
- All Produced & Arranged by THE ROOSTERS (大江慎也(vo, g)、花田裕之(vo, g)、井上富雄(b)、池畑潤二(ds))

<ザ・ルースタース (THE ROOSTERS、THE ROOSTERZ) > HP:

<https://columbia.jp/roosters/>

1979年、福岡県北九州市、大江慎也 (vo)、花田裕之 (g)、井上富雄 (b)、池畑潤二 (ds) の4人で結成され、1980年11月、シングル「ロージー」でデビュー。同年同月、1st アルバム「THE ROOSTERS」を発表。

ブルースの定番曲、Willie Dixonの『Little Red Rooster』に由来するバンド名が示す通り、ローリング・ストーンズのレパートリーなどに代表される洋楽ロック・カバーやオリジナル曲をシンプルなビートで演奏していたが、徐々にニューウェイヴ的な音へ接近。82年にドラマーが交代し、下山淳 (g) もこの頃に加入。大江が体調を崩した83年頃から花田と下山を中心に活動を続け、84年の『φ (PHY)』を最後に大江は休養に入った。バンド自体は88年に解散したが、現在も各メンバー現役で活動中。